

サイエンスカフェの御案内

日 時 : 2016年3月25日(金) 19:00~20:30

場 所 : 文部科学省情報ひろばラウンジ (旧庁舎1階)

東京都千代田区霞が関3-2-2

主 催 : 日本学術会議、文部科学省

テ ー マ : イタリア震災裁判が投げかける問い: 災害リスクと科学者の社会的責務

講 師 : 小谷眞男さん お茶の水女子大学基幹研究院教授 (イタリア法)

ファシリテーター: 佐藤岩夫さん 日本学術会議会員、東京大学社会科学研究所教授

内 容 :

2012年10月にイタリアのある地方裁判所でくださった判決が、日本でもちょっとした話題になりました。多数の死者を出した2009年のイタリア中部地震につき、事前の震災リスク評価に関連して被害者遺族から訴えられていた地震学者や火山学者を含む7名の被告人全員が、過失致死傷罪で懲役6年の実刑判決を受けたからです。有罪とされた科学者たちを擁護する声明が各国地震学会などから発表されたりもしました。この裁判は2015年11月に上告審の破毀院(日本の最高裁にあたります)で判決があり、最終的には6名は無罪、残る1名のみが懲役2年という結果に終わり、さまざまな論評が飛び交っています。しかし、この裁判の正確な中身は、意外によく知られていません。しばしば「地震予知に失敗した罪を問われた」などと言われたりしていますが、それは誤解です。もう科学者は何も言わなくなってしまうだろうという懸念もよく耳にしますが、この裁判の真の争点は「言ったこと責任」ではなく、実は「言うべきことを言わなかったこと責任」なのです。災害をめぐるリスク・コミュニケーションはどうあるべきか? 科学の知見が必要だがそれだけでは決められない不確実性の高い問題を、どのように決めていけばよいのか? 科学者の社会的責務とは…? 今回のサイエンスカフェでは、このイタリアの裁判がわれわれに投げかけてくる問題を、参加者のみなさんと一緒に考えてみたいと思います。



【参加方法】

事前申し込みでの受付となります。

「氏名」及び「3月25日サイエンスカフェ参加希望」と書いたEメールを sciencecafe@devotion-japan.com あてにお送り下さい

【参加費】 無料 【定員】 30名

【アクセス】

銀座線「虎ノ門駅」11番出口 直結

千代田線「霞ヶ関駅」A13番出口 徒歩5分

<http://www.mext.go.jp/joho-hiroba/access/index.htm>